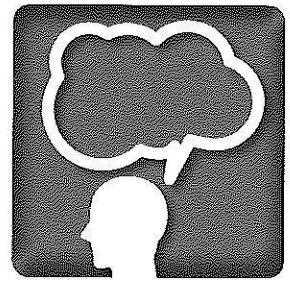


経営(継承)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方<sup>83</sup>

しんしゅうじよし  
慎終如始

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし  
経営コンサルタント。1991年に独立。  
介護事業に関する独自の調査に基づ  
いたデータ分析を各誌・紙に発表。著  
書に『早川浩士の常在学場』(筒井書  
房)、『介護人財創造塾』(筒井書  
房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企  
画)、『データで徹底分析 介護事業の  
最新動向と経営展望』(日本医療企画)  
など。

http://www.hayakawa-planning.com  
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-  
planning/

終わり慎むと始めの如し

物事の終わりにあたって、それを始めるときと同じく慎重な態度で臨み最後まで気を緩めないこと、という意を持つ「慎終如始(終わり慎むこと始めの如し)」の出自は「老子」にある。

何事も始める前に計画(目標)を立てることや、そのための準備を行うことの大切さについては、いまさらながら問い質すまでもなからう。

「1年の計は元旦にあり」と、新年を迎えるにあたって計画(目標)を立てるということは、決して珍しいことではない。

「今年の計画(目標)」の進捗状況は、如何であろうか。

計画(目標)への達成度を何パーセントと、数値化して示すことのできる人がいる一方、箸にも棒にもかからないという人も少なからずいる。

体調管理は自己の責任であると決意して、体力づくり計画(目標)を掲げたとしても、

利用者には勧めている筋トレ、ストレッチを、自らのためにと自覚してはいても、「三日坊主」を繰

り返している人がいる。

他人のためにはかり忙しくして、自分のことをする暇のないことを「紺屋の白袴」というが、まさにそれである。

不摂生を背景とした体調不良を訴える前に、健康づくりへの心がけの至らなさを自らが質せないという態度こそ、問題である。

まずは、自分の心構えを改める事こそが生涯にわたる一大仕事であるとして、始めるべきのように、終わり際まで慎重であり続けるという態度を、来年こそは初心貫徹できるようにしたい。

自分の心構えに責任がある

米国のリーダーシップ論の権威として知られるジョン・C・マックスウェルは、「私たちは自分の心構えに責任がある」として、次の5点を指摘している。

- ①われわれは、何年生きられるのか自分では決められない。けれど、その年月をどのように充実させられるのかは決められる。
- ②われわれは、自分の顔の美しさを意のままにはできない。けれど、その表情を意のままにはできる。
- ③われわれは、人生における困難な

瞬間を押し込めることはできない。けれど、その困難を和らげることはできる。

④われわれは、世界の後ろ向きな空気を押し込めることはできない。けれど、自分の心の空気を意のままにできる。

⑤われわれは、物事を無理やりにも押し込めようとすることがあまりにも多い。われわれは、自分が意のままにできること、つまり心構えを改めようとするのはほとんどしない。

「今年の計画(目標)」が「三日坊主」に終わったのは、無理やりにつくらせられたから。

それとも、無茶な目標(計画)を立てたからであろうか。

足らなかつたのは、「今年の計画(目標)」に向けた心構えに責任を取ろうとしない自らの態度にあると言っても過言ではあるまい。

「来年こそは、努力します」ではなくて、

「来年こそは、訓練します」と心構えを改め、慎終如始で臨むことを提案したい。

「計画(目標)」倒れとなる前に、努力とともに訓練を惜しむことなかれ。